

いじめや暴力のない学校づくり

1 いじめの現状

(いじめの定義)

「いじめ」とは、児童等に対して、当該児童等が在籍する学校に在籍している等当該児童等と一定の人的関係にある他の児童等が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む）であって、当該行為の対象となった児童等が心身の苦痛を感じているものをいう。

(いじめ防止対策推進法第二条第一項)

(1) いじめの認知件数

三重県の小中学校、高等学校、特別支援学校におけるいじめの認知件数は、減少傾向にあります。ただし、必ずしもそのことが良いこととは言い切れず、より丁寧にいじめの認知を行うことが大切であることを学校に指導しています。

学年別に見ると、全国と同様に、中学校1年生の発生件数が最も多い状況です。

(表1) 三重県（公立学校）のいじめの認知件数

(単位：件)

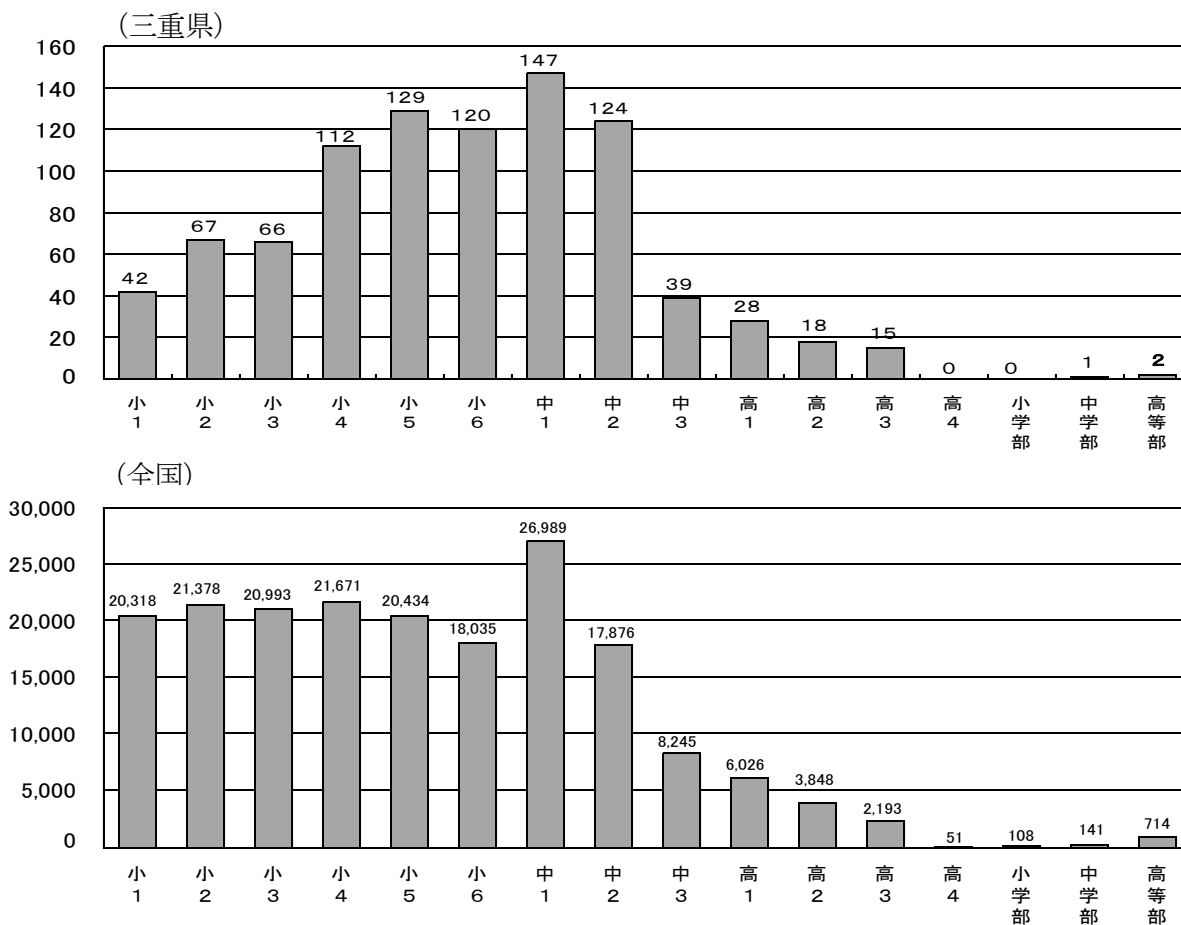
	H22	H23	H24	H25	H26	H26—H25
小学校	156	102	975	621	536	▲85
中学校	146	109	630	529	310	▲219
高等学校	34	33	126	54	61	7
特別支援学校	4	1	7	5	3	▲2
合計	340	245	1,738	1,209	910	▲299

(表2) 三重県（公立学校）及び全国（国公立）の児童生徒1,000人あたりのいじめの認知件数

(単位：件)

		H22	H23	H24	H25	H26	H26—H25
小学校	三重県	1.5	1.0	9.6	6.2	5.5	▲0.7
	全国	5.3	4.8	17.4	17.8	18.6	0.8
中学校	三重県	2.9	2.1	12.4	10.4	6.2	▲4.2
	全国	9.4	8.6	17.8	15.6	15.0	▲0.6
高等学校	三重県	0.8	0.8	3.2	1.3	1.5	0.2
	全国	2.1	1.8	4.8	3.1	3.2	0.1
特別支援学校	三重県	3.0	0.7	5.0	3.4	2.0	▲1.4
	全国	3.1	2.7	6.4	5.9	7.3	1.4
合計	三重県	1.7	1.2	9.0	6.2	4.8	▲1.4
	全国	5.5	5.0	14.3	13.4	13.7	0.3

(グラフ1) 三重県(公立学校)及び全国(国公立)の学年別認知件数 (H26) (単位:件)



(2) いじめの態様

いじめの態様は、全国と同様に、全校種ともに「冷やかしやからかい、悪口や脅し文句、嫌なことをされる」が最も多く、次いで「軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりする」が多い状況です。

- ・「冷やかしやからかい、悪口や脅し文句、嫌なことをされる」
H26年度 三重県公立 71.8% (全国公立 64.5%)
- ・「軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりする」
H26年度 三重県公立 21.3% (全国公立 22.3%)

(3) いじめの解消率 (年度内にいじめが解消した割合)

いじめの解消率は、平成23年度までは全国より低い状況でしたが、平成24年度以降は全国より高い状況となっています。

(表3) 三重県(公立学校)及び全国(国公立)の認知件数に対する解消率

(単位:%)

		H22	H23	H24	H25	H26	H26-H25
小中学校及び 県立学校	三重県	73.2	69.0	91.7	92.1	92.0	▲0.1
	全国	79.1	80.2	89.4	88.1	88.7	0.6
	全国との差	-5.9	-11.2	2.3	4.0	3.3	▲0.7

2 暴力行為の現状

(暴力行為の定義)

「暴力行為」とは、「自校の児童生徒が、故意に有形力（目に見える物理的な力）を加える行為」をいい、被暴力行為の対象によって、「対教師暴力」教師に限らず、用務員等の学校職員も含む。）、「生徒間暴力」（何らかの人間関係がある児童生徒同士に限る。）、「対人暴力」（対教師暴力、生徒間暴力の対象者を除く。）、学校の施設・設備等の「器物損壊」の四形態に分ける。ただし、家族・同居人に対する暴力行為は、調査対象外とする。

(文部科学省：児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査)

(1) 暴力行為の発生件数

三重県の暴力行為発生件数は、全国と同様に、小学校で増加傾向にあります。中学校や高等学校では、やや減少する傾向にあります。

(表4) 三重県（公立学校）の暴力行為の発生件数

(単位:件)

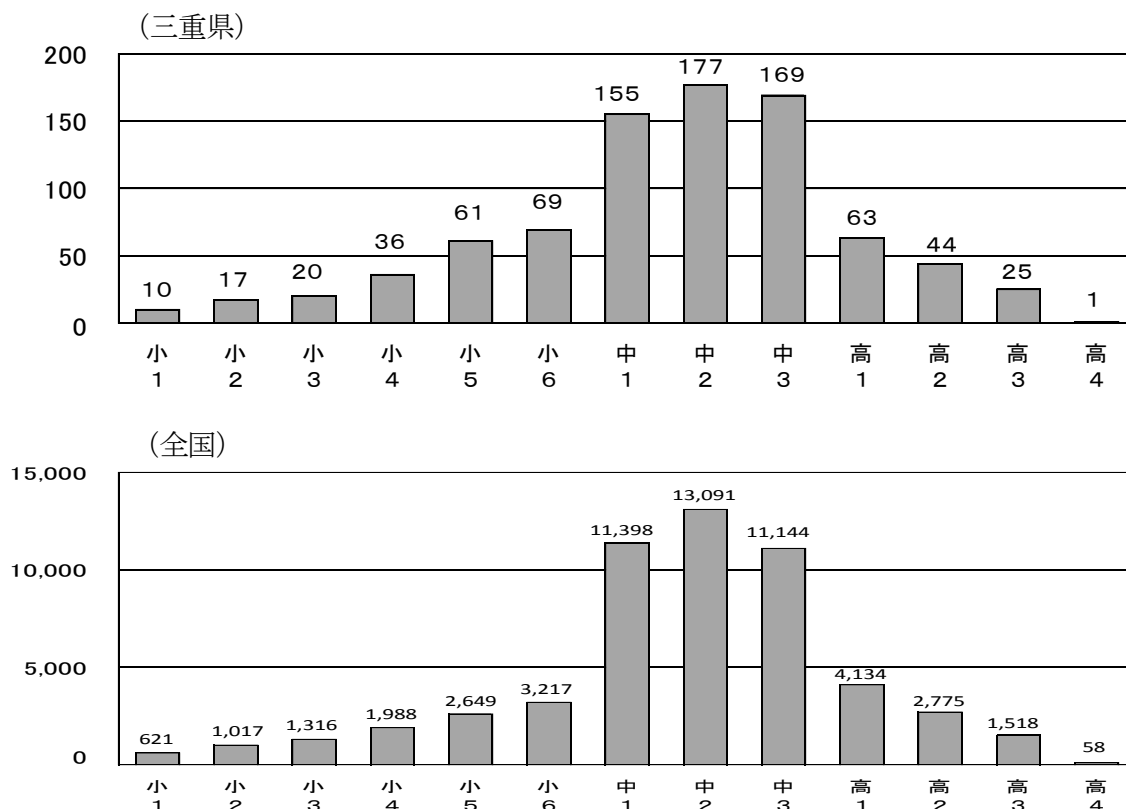
	H22	H23	H24	H25	H26	H26-H25
小学校	54	87	118	174	268	94
中学校	490	564	543	598	525	▲73
高等学校	142	134	120	128	113	▲15
計	686	785	781	900	906	6

(表5) 三重県（公立学校）及び全国（国公私立）の児童生徒1,000人あたりの暴力行為の発生件数

(単位:件)

		H22	H23	H24	H25	H26	H26-H25
小学校	三重県	0.5	0.8	1.2	1.7	2.7	1.0
	全国	1.0	1.0	1.2	1.6	1.7	0.1
中学校	三重県	9.6	11.0	10.7	11.8	10.5	▲1.3
	全国	12.0	10.9	10.7	11.3	10.1	▲1.2
高等学校	三重県	3.5	3.3	3.0	3.1	2.8	▲0.3
	全国	3.0	2.8	2.8	2.3	2.0	▲0.3
合計	三重県	3.5	4.0	4.0	4.7	4.8	0.1
	全国	4.3	4.0	4.1	4.3	4.0	▲0.3

(グラフ2) 三重県(公立学校)及び全国(国公立)の暴力行為
 学年別加害児童生徒数(H26) (単位:人)



(2) 形態別状況

暴力行為を形態別にする、全国と同様に、全校種で生徒間暴力が最も多い状況にあります。

(表6) 三重県(公立学校)の形態別暴力行為の発生件数(H26) (単位:件)

	小学校	中学校	高等学校
対教師暴力	67 (+28)	113 (-30)	14 (+1)
生徒間暴力	173 (+63)	345 (-26)	73 (-11)
対人暴力	3 (+2)	11 (+5)	4 (±0)
器物損壊	25 (+1)	56 (-22)	22 (-5)
合計	268 (+94)	525 (-73)	113 (-15)

※ () の数は、前年度からの増減

< 小学校の暴力行為事例(H26年度) >

- 加害者は、下校途中に他の児童に対して理由もないなか、たたく、蹴るなどの暴力を行った。(1年)
- 加害者は、被害児童と口論からトラブルに発展し、その後、その児童の顔面を殴り、教科書を破った。(2年)
- 加害者は、体育館で高跳び用のマットを片付けているときに、倒れて頭を打った。他の児童の行為だと逆恨みし、暴言を吐き蹴った。(6年)

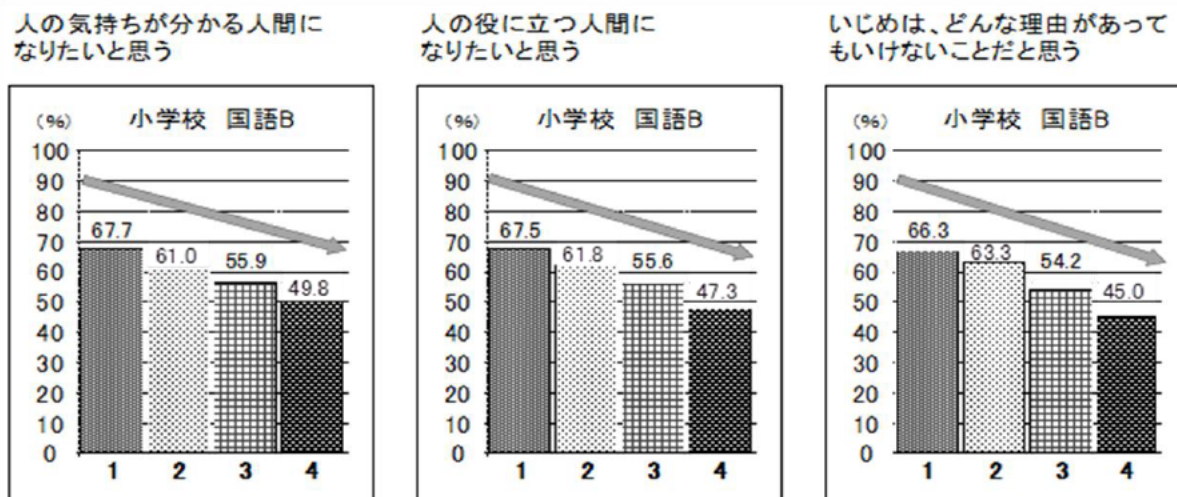
3 「全国学力・学習状況調査」質問紙による関連項目

(1) 児童生徒質問紙との関連

① 質問項目「人の気持ちが分かる人間になりたいと思う」「人の役に立つ人間になりたいと思う」「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」

規範意識は、特に小学校「国語 B」と関連が見られます。論理的に考え、相手の言葉を受け止め、伝え合う言葉をもつことが規範意識にも影響しています。

(グラフ 3)



<以下の比較表の見方>

※表中の数字は、「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」と肯定的に回答した児童生徒の割合を表す。
 ※表中の矢印は、三重県の割合の変位、及び「全国との差」の変位を表し、↗ は「改善・上昇」を、→ は「変動なし」を、↘ は「下降」を表す。
 ※表中のA・B・Cは、「全国との差」の変位を表し、Aは「改善・上昇」を、Bは「変動なし」を、Cは「下降」を示す。
 ※表中の+・-は、三重県の割合の変位を表し、+は「改善・上昇」を、-は「下降」を表す。
 ※表中の○は、「A、B、C」及び「+、-」の数値が±5ポイント以上離れていることを表す。
 ※表中の網掛けは、平成21年度の質問紙に同じ質問項目がなかったものである。

② 質問項目「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」

小中学校ともに、いじめはどんな理由があってもいけないと思う児童生徒の割合が増加しています。全国と比較すると、小中学校ともに長期的に見ると向上しており、平成27年度は全国を上回りました。

(表 7)

		H21	H21→H26	H26	H26→H27	H27	H26→H27	H21→H27
小学校	三重県	94.7	↗	96.3	↗	96.5	+	↗
	全国	94.9		96.4		96.2	A	A
	全国との差	-0.2	↗	-0.1	↗	0.3		↗
中学校	三重県	89.8	↗	92.8	↗	93.9	+	↗
	全国	90.3		93.4		93.7	A	A
	全国との差	-0.5	↘	-0.6	↗	0.2		↗

③ 質問項目「自分には、よいところがある」

小学校では、「自分にはよいところがある」と回答する割合が長期的には横ばいで、全国と比較すると下回っており、その差が広がっています。中学校では、「自分にはよいところがある」と回答する割合が増加し、全国を上回っています。

(表 8)

		H21	H21→H26	H26	H26→H27	H27	H26→H27	H21→H27
小学校	三重県	75.1	↗	75.7	↘	75.1	-	→
	全国	74.6		76.1		76.4	C	C
	全国との差	0.5	↘	-0.4	↘	-1.3		↘
中学校	三重県	63.0	↗	69.1	↗	69.4	+	↗
	全国	61.2		67.1		68.1	C	C
	全国との差	1.8	↗	2.0	↘	1.3		↘

④ 質問項目「将来の夢や目標を持っている」

小中学校ともに、「将来の夢や目標を持っている」と回答する割合が長期的に見ると増加しています。全国と比較すると、小学校では全国を下回っているものの、その差は小さくなっています。中学校は、全国上回る割合が減少し、平成27年度は全国と同様の割合です。

(表 9)

		H21	H21→H26	H26	H26→H27	H27	H26→H27	H21→H27
小学校	三重県	84.3	↗	85.8	↘	85.3	-	↗
	全国	86.3		86.7		86.5	C	A
	全国との差	-2.0	↗	-0.9	↘	-1.2		↗
中学校	三重県	71.4	↗	71.6	↗	71.7	+	↗
	全国	71.0		71.4		71.7	C	C
	全国との差	0.4	↘	0.2	↘	0.0		↘

⑤ 質問項目「学校に行くのは楽しいと思う」

小学校では、学校に行くのは楽しいと思う割合が増加していますが、全国と比較すると、やや下回っています。中学校では、学校に行くのは楽しいと思う割合が減少していますが、全国と比較すると上回っています。

(表 10)

		H21	H21→H26	H26	H26→H27	H27	H26→H27	H21→H27
小学校	三重県			86.6	↗	86.9	+	
	全国			86.6		87.0	C	
	全国との差			0.0	↘	-0.1		
中学校	三重県			84.8	↘	83.9	-	
	全国			82.4		82.1	C	
	全国との差			2.4	↘	1.8		

⑥ 質問項目「人の役に立つ人間になりたい」

小学校では、「人の役に立つ人間になりたい」と回答する割合が長期的に見ると増加しており、全国との差がなくなっています。中学校では、「人の役に立つ人間になりたい」と回答する割合が増加しており、全国を上回っています。

(表 1 1)

		H21	H21→H26	H26	H26→H27	H27	H26→H27	H21→H27	
小学校	三重県	92.2	↗	93.7	→	93.7	A	↗	+
	全国	92.5	→	94.0	↗	93.7		↗	A
	全国との差	-0.3		-0.3		0.0			
中学校	三重県	91.0	↗	93.8	↗	94.1	A	+	↗
	全国	90.4	↘	94.0	↗	93.7		↘	C
	全国との差	0.6		-0.2		0.4			

⑦ 質問項目「人の気持ちが分かる人間になりたい」

小中学校ともに、「人の気持ちが分かる人間になりたい」と回答する割合が長期的に見ると増加しています。全国と比較すると、小学校では下回っているものの、その差が小さくなっており、中学校では全国平均まで向上しています。

(表 1 2)

		H21	H21→H26	H26	H26→H27	H27	H26→H27	H21→H27	
小学校	三重県	91.0	↗	94.1	↘	93.8	A	-	↗
	全国	91.4	↗	94.4	↗	93.9		↗	A
	全国との差	-0.4		-0.3		-0.1			
中学校	三重県	91.7	↗	94.9	→	94.9	A	↗	+
	全国	91.9	↘	95.3	↗	94.9		↗	A
	全国との差	-0.2		-0.4		0.0			

⑧ 質問項目「学校のきまり(規則)を守っている」

小中学校ともに、「学校のきまり(規則)を守っている」と回答する割合が増加しています。全国と比較すると、小学校では下回っていますが、その差は長期的に見ると縮まっています。中学校では全国を上回り、その差が長期的に見ると大きくなっています。

(表 1 3)

		H21	H21→H26	H26	H26→H27	H27	H26→H27	H21→H27	
小学校	三重県	87.0	↗	90.4	↗	91.0	B	+	↗
	全国	88.5	↗	90.5	→	91.1		↗	A
	全国との差	-1.5		-0.1		-0.1			
中学校	三重県	89.2	↗	93.4	↗	95.2	A	+	↗
	全国	88.6	↘	93.0	↗	94.4		↗	A
	全国との差	0.6		0.4		0.8			

⑨ 質問項目「家の人と学校での出来事について話す」

小中学校ともに、「家の人と学校での出来事について話す」と回答する割合が長期的に見ると大きく増加しています。全国と比較すると、小中学校ともに全国を下回っているものの、小学校ではその差が縮まっています。中学校では全国との差がやや広がっています。

(表 1 4)

		H21	H21→H26	H26	H26→H27	H27	H26→H27	H21→H27				
小学校	三重県	69.5	↗	78.9	↘	78.6	-	↗	⊕			
	全国	70.9		80.4		79.5				A	↗	A
	全国との差	-1.4	↘	-1.5	↗	-0.9						
中学校	三重県	60.1	↗	72.5	↗	73.4	+	↗	⊕			
	全国	59.8		72.6		73.7				C	↘	C
	全国との差	0.3	↘	-0.1	↘	-0.3						

(2) 学校質問紙との関連

① 質問項目「児童（生徒）一人ひとりの良い点や可能性を見つけ、児童（生徒）に伝えるなど積極的に評価しましたか」

小中学校ともに、積極的に児童（生徒）を評価する学校が増加しており、特に中学校では、ほとんどの学校が積極的な評価を行うまで向上しています。全国と比較すると、小中学校ともに上回っており、特に中学校において、その差は大きくなっています。

(表 1 5)

		H21	H21→H26	H26	H26→H27	H27	H26→H27	H21→H27				
小学校	三重県			97.1	↗	97.6	+					
	全国			96.9		96.7				A		
	全国との差			0.2	↗	0.9						
中学校	三重県			96.9	↗	99.4	+					
	全国			96.5		95.8				A		
	全国との差			0.4	↗	3.6						

② 質問項目「児童（生徒）は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、相手の考えを最後まで聞くことができていると思いますか」

小中学校ともに、児童生徒が相手の考えを最後まで聞くことができると回答する学校が増加しています。全国と比較すると下回っていますが、その差は小さくなっています。

(表 1 6)

		H21	H21→H26	H26	H26→H27	H27	H26→H27	H21→H27
小学校	三重県			77.9	↗	81.8	+	
	全国			83.3		84.0	A	
	全国との差			-5.4	↗	-2.2		
中学校	三重県			81.5	↗	83.9	+	
	全国			83.4		85.2	A	
	全国との差			-1.9	↗	-1.3		

③ 質問項目「児童（生徒）は、礼儀正しいと思いますか」

小中学校ともに、児童生徒は礼儀正しいと回答する学校が長期的に見ると増加しています。全国と比較すると、小学校では下回っていますが、その差は大幅に縮まっています。中学校では全国をやや上回るまで向上しています。

(表 1 7)

		H21	H21→H26	H26	H26→H27	H27	H26→H27	H21→H27
小学校	三重県	82.7	↘	81.9	↗	87.9	+	↗
	全国	87.2		87.6		88.4	A	A
	全国との差	-4.5	↘	-5.7	↗	-0.5		↗
中学校	三重県	83.6	↗	88.9	↗	91.3	+	↗
	全国	86.5		90.0		91.1	A	A
	全国との差	-2.9	↗	-1.1	↗	0.2		↗

4 いじめと暴力行為の課題に係る取組の推進

(1) 「いじめ防止対策推進法」、「三重県いじめ防止基本方針」等に基づいた未然防止及びいじめ事案発生時の組織的対応の充実を図ります。

また、三重県いじめ防止条例（仮称）の制定について、現在、庁内の関係課及び県警で構成する担当者会議を開催して検討を進めています。今後、保護者や県民等からなる検討委員会を発足させ、子どもたちが「三重県の大人たちは、いじめに真剣に向き合っている」と安心感を抱き、共感できるような条例を目指して、制定に向けて取り組んでまいります。

(参考資料 1 : かけがえのない命！いじめを絶対に許さない緊急アピール

児童生徒のみなさんへ)

(参考資料 2 : 三重県いじめ防止基本方針)

(参考資料 3 : いじめ事案発生時の組織的対応について)

三重県（公立学校）及び全国（国公立）の「学校いじめ防止基本方針」及び「学校におけるいじめの防止等の対策のための組織」の設置率（H26）

（表 18）

（単位：％）

	学校いじめ防止基本方針		学校におけるいじめの防止等の対策のための組織	
	三重県 （公立）	全 国 （国公立）	三重県 （公立）	全 国 （国公立）
小学校	100.0	99.9	100.0	99.9
中学校	100.0	99.9	100.0	99.9
高等学校	100.0	98.7	100.0	99.7
特別支援学校	100.0	98.9	100.0	100.0
合 計	100.0	99.9	100.0	99.9

（2）各学校では、学期に1回以上、定期的ないじめのアンケート調査（原則、無記名）を実施するとともに、面談等を通じて、いじめの早期発見に努めています。

（3）心理的・家庭的に複雑な背景を抱える子どもたちの行動に対して、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを活用して、学校と関係機関が連携を強化しながらチームで対応していくことが重要です。

スクールカウンセラーを全ての中学校区に配置し、小学校から中学校への途切れのない支援に努めており、また、中学校区で柔軟に活用できるよう工夫しています。

（参考資料4：スクールカウンセラー及びスクールソーシャルワーカーの活用について）

（参考資料5：「チームとしての学校」像（イメージ図）

「チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について」（答申）より抜粋）

（4）学校教育活動全体を通して、子どもたちが命を大切にし、いじめや暴力を許さず、相手を思いやる心や個性を認め合う態度等を身につけられるよう取り組みます。

（参考資料6：学習指導要領「特別の教科道徳」等におけるいじめに関する記述）